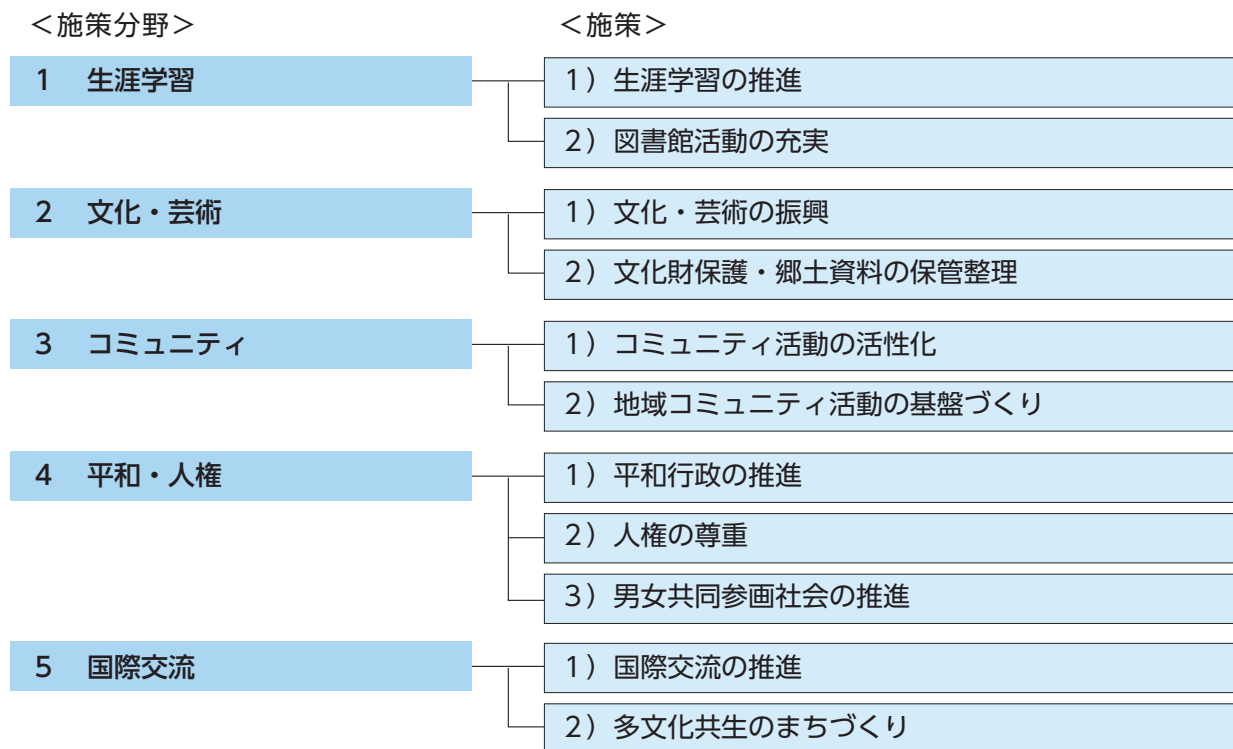


## 基本目標3

# 豊かなこころを 育むまち



## 基本目標3

# 豊かなこころを育むまち

## 〈施策分野1〉 生涯学習

### 現況と課題

これまで生涯学習に取り組むさまざまなグループ、団体の形成があり、主体的かつ継続的な学習活動が展開され、生涯学習推進団体の登録の増加や各種団体との共催による住民提案型協働事業が実施されています。令和2年度には、第2次瑞穂町生涯学習推進計画を策定し、住民が誰でも生涯自由に学習する機会を選択して学ぶことができ、その成果を適切に活かすことのできる社会づくりをめざします。

図書館サービスの充実では、西多摩地域の広域利用や武蔵村山市との相互利用の推進、インターネットによる資料検索予約システムの運用、さらに読書講演会等の開催に加え、郷土資料館と連携した地域資料のデジタル化等、利便性の向上や事業の充実をはかっています。地域図書室でも、ボランティアと連携したおはなしの会や読書会などを開催し、地域の実情に即した運営につとめています。また、図書館の改修に向けては、図書館運営の現状や課題、今後のあり方などの検討をすすめ、「本や人とゆるやかにつながり、自分の居場所と感じられる図書館」をメインコンセプトとした図書館改修工事基本計画を住民などとの協働で策定し、改修工事に着手しました。

図書館活動を充実させるために、多様化する利用者ニーズに対応した資料の収集や、貸出体制の充実、本に親しむきっかけづくりなど、住民にとって居心地がよく、自分の居場所と感じられる場所にしていくことが重要です。

## 10年後のめざす姿

誰もが、いつでも、どこでも、気軽に学習できる環境が身近にあり、住民との協働で作  
りあげた多様な学習機会を通じ、世代・地域を超えたさまざまな交流が生まれています。

### ■ 施策数値指標

指標名	現状値	令和7年度目標値	令和12年度目標値
図書館（図書室）利用者数	31,746人 (令和元年度)	33,000人	35,000人
生涯学習団体数	181団体 (令和元年度末日時点)	190団体	200団体

## 施策

### 1 生涯学習の推進

生涯学習推進計画の施策を推進するとともに、すべての住民やグループが生涯にわたって学べるよう多様な講座や教室を協働によって実施します。また、出前講座制度の活用や総合人材リストの拡充につとめます。

#### 【主要な取組】

- 自主的活動、学習活動を行うグループなどへの支援
- スカイホール、生涯学習センターの運営・管理の見直し
- こどもフェスティバル、総合文化祭、成人式、住民などとの協働による事業の実施

## 2 図書館活動の充実

**重点** 図書館改修に向けて確実に事業を実施するとともに、人と人を繋ぐ交流の場となるよう、幅広い分野の図書資料を収集し、調査相談・情報提供のさらなる充実につとめます。また、住民との協働でおはなしの会等の読書活動を推進し、自分の居場所と感じられる交流の場を創出するとともに、住民に親しまれる図書館をめざします。

### 【主要な取組】

- 図書館資料の充実
- 学校図書室との連携
- 西多摩地域広域利用をはじめとした貸出体制の充実
- 町内の公共施設等と連携した、住民に身近な図書館のあり方の検討
- 住民やボランティアなどの団体との協働による読書活動の実施
- 図書館改修事業の推進
- 図書館施設の運営・充実



図書館改修事業(完成イメージ)

## 瑞穂町の主な関連計画

- 生涯学習推進計画
- 図書館改修工事基本計画
- 子ども読書活動推進計画
- コミュニティ振興計画

## 「重視すべき視点」からの配慮事項

### 1) 町の魅力を際立たせる

地域資料を充実させ、町の魅力を発信します。

### 2) 資源を磨き生活の質を豊かにする

学校プログラム、地域の自主団体などとの連携による多様な学習機会を通じ、住民の生活を豊かにしていきます。

### 3) つながる地域づくり

図書館を「本」や「人」を通してさまざまなつながりを育む場として、また、誰もが「自分の居場所」と感じられる場所として活用します。

主体的に構成されたグループや団体について、互いに連携し活動することによってつながりを広く強固なものにしていきます。

### 4) 危機に備える

自主活動および学習活動の場を広げるとともに、住民同士のつながりを深め、危機に対応します。

## 基本目標3

## 豊かなこころを育むまち

### 〈施策分野2〉 文化・芸術

#### 現況と課題

瑞穂町の主要な文化活動の場であるスカイホールは、住民の文化活動や学習成果の発表の場として、総合文化祭をはじめとする多くの文化事業に活用されています。文化・芸術の空間を提供する耕心館は、ジュニアピアノコンテスト等の発表会やサロンコンサート等が行われているとともに、耕心館の代表的な事業となった瑞穂のつるし飾りは、町外からも多くの方が訪れています。

また、町の歴史を次世代に伝えていくほか、自然や文化の拠点となる施設として整備された郷土資料館「けやき館」では、町の貴重な文化財などの保存・展示を行うとともにさまざまな事業を実施しています。

文化・芸術の振興のためには、優れた文化・芸術に触れる機会の提供や、町外からの町内施設への利用者および来館者を増やすと同時に、文化団体などの自主的な運営による自発的な活動が必要です。また、スカイホールについては、施設の老朽化がすすんでいる現状をふまえ、適切な維持管理につとめるとともに、利活用も含め今後のあり方について検討が必要です。

文化財などの保存・継承や、歴史・自然・文化などのふるさとの良さを伝えることで、小・中学生のふるさとの愛着、関心を向上させ、後世に引き継ぐことが重要です。

## 10年後のめざす姿

スカイホール、耕心館、郷土資料館「けやき館」をはじめ、多様なプログラムの展開と各施設の適正な維持管理により、誰もが身近に自分の興味に合った質の高い文化・芸術・歴史に親しむ環境が整っています。

### ■ 施策数値指標

指標名	現状値	令和7年度目標値	令和12年度目標値
スカイホール利用者数	43,768人 (令和元年度)	48,000人	52,000人
郷土資料館来館者数 ( )は新規来館者数	39,325人 (10,477人) (令和元年度)	43,000人 (12,900人)	46,000人 (13,800人)

## 施策

### 1 文化・芸術の振興



創生

優れた文化・芸術に親しむ機会の提供や、文化団体などが自立するための支援を行います。また、スカイホールを拠点とした事業の展開、耕心館と郷土資料館が一体となった、音楽や演劇、文化活動などの成果を発表する場の創出および事業の充実をはかります。

#### 【主要な取組】

- 町内を拠点とする文化団体などへの活動支援
- スカイホールを拠点とした事業の展開および今後の施設運営の検討
- 耕心館と郷土資料館が一体となった事業の充実



## 2 文化財保護・郷土資料の保管整理

郷土資料館「けやき館」では、文化財などの保存・継承や、歴史・自然・文化などのふるさとの良さを伝えるため、ふるさと学習「みずほ学」との連携を強化します。また、小・中学生の歴史・文化などへの関心、知識を向上させるとともに、貴重な郷土資料などを収集し保管、収蔵および活用につとめます。

### 【主要な取組】

- 瑞穂町の歴史や文化に関する有形・無形資源等の保存と活用
- 文化財保護活動の普及・啓発
- 伝統芸能の後継者の育成
- ふるさと学習「みずほ学」との連携の強化
- 自然保護活動の普及啓発
- ふるさとづくり推進事業の継続



郷土資料館「けやき館」



## 瑞穂町の主な関連計画

- 生涯学習推進計画

### 「重視すべき視点」からの配慮事項

#### 1) 町の魅力を際立たせる

スカイホール、耕心館、郷土資料館等、それぞれの施設の持つ魅力を活かした多様なプログラムの展開により、施設とプログラムが一体となった芸術・文化空間を町外に向けても発信することにつとめます。

#### 2) 資源を磨き生活の質を豊かにする

耕心館、郷土資料館が一体となって、地域住民のボランティアなどとの協働による事業展開につとめます。

#### 3) つながる地域づくり

文化芸術を通して、住民のつながりを広げるとともに、周辺施設などと連携した事業展開につとめます。

#### 4) 危機に備える

歴史や伝統の継承により、危機の対応を学びます。

## 基本目標3

# 豊かなこころを育むまち

## 〈施策分野3〉 コミュニティ

### 現況と課題

少子高齢化、生産年齢人口の減少など、社会構造が大きく変化する中、まちづくりの基礎となる地域コミュニティの活動機能が停滞してきていると同時に、地縁のない住民が増加し地域コミュニティが希薄化してきています。

瑞穂町には現在40の町内会・自治会がありますが、加入率は42.6%（平成31年4月現在）で、この10年間で17.5ポイント下がっています。町内会・自治会加入世帯の高齢化は顕著な状況ですが、その高齢世帯の脱退、若い世代をはじめとした未加入世帯の増加、会員減少による役員への負担増に伴う役員のなり手不足など、町内会・自治会を取り巻く環境は一段と厳しくなっています。

瑞穂町では、これまで町内会・自治会への加入促進に取り組むほか、地域コミュニティ活性化のため、町内会・自治会などが実施する事業に対し、地域づくり補助金による支援などを行ってきました。町内会・自治会への未加入世帯には、どんな活動をしているのか知ってもらい、地域の情報を共有するなど、興味を持ってもらうことで、町内会・自治会の必要性を認知してもらうことが必要です。

また、少子高齢化が進行する中で、孤独の解消、社会的つながりの強化のためには、「ゆるやかなつながり」が重要性を増していくと考え、一定の分野に特化した活動を行う「テーマ型活動」と従来からの町内会・自治会などの「地縁型活動」の連携など、包括的な地域活動組織の育成がもとめられています。また、コミュニティの活動拠点からの事業を活用し、人と人とのつながりからコミュニティを活性化し、新たなささえ合いの形を創出することも必要です。

## 10年後のめざす姿

さまざまな団体が地域づくりや地域コミュニティの活性化に取り組み、町内会・自治会の必要性を認識し、住民自らの自治による結束力の強い地域の姿が芽生え始めています。

### ■ 施策数値指標

指標名	現状値	令和7年度目標値	令和12年度目標値
これからの社会において、地域社会の活動（町内会・自治会など）に積極的に参加したいと答えた人の割合	18.4% (令和元年度)	20%	22%
コミュニティ施設利用者数 (町民会館、地区会館、コミュニティセンター利用者数)	193,258人 (令和元年度)	210,000人	230,000人

## 施策

### 1 コミュニティ活動の活性化

**重点** コミュニティ活動の活性化のため、町内会・自治会をはじめとしたさまざまな団体の支援を行います。また、地域のさまざまな分野で活動する団体を把握し、新たな地域コミュニティのあり方の研究・検討をすすめるとともに、協働事業の推進につとめます。

#### 【主要な取組】

- 町内会・自治会および自主防災組織の支援・強化
- 協働事業の推進
- 各コミュニティ施設(町民会館、地区会館、コミュニティセンター、スポーツ広場等)における自主グループ・サークルによる主体的な学習活動の支援

## 2 地域コミュニティ活動の基盤づくり

**重点** コミュニティ施設の管理運営方法等を検討するとともに、誰もが利用しやすい活動環境を提供します。

### 【主要な取組】

- 地域との協働による各コミュニティ施設の維持管理・運営
- コミュニティセンター等における主催事業をはじめ、住民の交流の場としてさまざまな取組を支援

### 瑞穂町の主な関連計画

- コミュニティ振興計画
- 生涯学習推進計画

### 「重視すべき視点」からの配慮事項

#### 1) 町の魅力を際立たせる

#### 2) 資源を磨き生活の質を豊かにする

コミュニティ施設の柔軟な利用方法を構築し、さまざまな人々にとっての憩いの場を形成することにつとめます。

#### 3) つながる地域づくり

地域の多様な人々が互いに認識・交流し合う従来型の居場所のほか、これまでにない出会いや交流のきっかけを生む、新たなコミュニティの構築をめざします。

#### 4) 危機に備える

災害時における地域での対応方法がわかる、共助の体制づくりにつとめます。

## 基本目標3

## 豊かなこころを育むまち

## 〈施策分野4〉 平和・人権

## 現況と課題

瑞穂町ではこれまで、住民一人ひとりに対し平和の大切さを訴えるため、平和祈念碑の建立、平和を象徴するアンネのバラをはじめとした平和関連樹木の植樹、平和のパネル展の実施、平和のメッセージおよび平和の語り部事業を展開してきました。終戦から75年が経過し、戦争を体験した先人・世代も少なくなり、戦争の記憶が風化しつつあります。平和に関して学ぶ機会を積極的に設け、平和意識の高揚をはかることが重要です。

人権を取り巻く環境は近年多種化し、児童虐待、さまざまなハラスメント、インターネットを利用した誹謗中傷など、人権を無視した許されない行為が増加しています。また、新型コロナウイルス感染症に関連して、ごく身近なところでの差別・偏見などが社会問題となっています。多様化する人権問題の解決に向け、問題を抱える住民が必要な時に相談できる体制整備が必要です。配偶者などからの暴力や、児童、高齢者への虐待など、あらゆる暴力に関する相談についても、相談窓口の連携による早期発見と対応が必要です。

また、性別にとらわれることなく、あらゆる世代が、自らの希望に応じた生き方を選択できることが理想です。男女共同参画を推進するためには、男女の役割における固定観念を払拭し、性別などに関わらず多様な人材が活躍する社会をめざし意識変革をはかる必要があります。

## 10年後のめざす姿

平和・人権に対する意識が住民の間に浸透し、人権を尊重し合う人のつながりが形成されています。また、性別にかかわらずその個性と能力を発揮して、仕事や家庭、地域で活躍できる多様性が尊重された環境が整っています。

### ■ 施策数値指標

指標名	現状値	令和7年度目標値	令和12年度目標値
審議会等委員における女性比率	25.1% (令和2年4月現在)	30%	33%

## 施策

### 1 平和行政の推進

平和展の実施、平和のメッセージおよび平和の語り部事業の継続、平和の象徴であるアンネのバラ等、平和関連樹木の維持・管理などを通し、平和の大切さを改めて考える機会を提供するなど、積極的な啓発活動を行います。

#### 【主要な取組】

- 平和展の実施
- 平和のメッセージおよび平和の語り部事業の実施
- アンネのバラおよび平和関連樹木等の維持・管理



アンネのバラ

## 2 人権の尊重

いのちや人権を無視した行為に対して迅速で適切な対応をするとともに、人権擁護委員と協働し、人権意識の啓発や相談事業の体制整備および充実をはかります。また、DVや児童虐待の早期発見、適切な対応に向けた関係機関との連携を強化します。

### 【主要な取組】

- 人権擁護委員と連携した人権啓発活動、相談事業の充実
- DVや児童虐待などの早期発見、適切な対応に向けた関係機関との連携

## 3 男女共同参画社会の推進



創生

瑞穂町男女共同参画社会推進行動計画の基本理念「一人ひとりが共につくる地域社会をめざして」の実現に向け、あらゆる場での男女共同参画社会形成および多様性を尊重する意識醸成に向けた個別施策をすすめます。

### 【主要な取組】

- 男女共同参画社会推進事業の充実
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 多様な性のあり方への理解促進



男女共同参画社会推進事業講演会



## 瑞穂町の主な関連計画

- 男女共同参画社会推進行動計画

### 「重視すべき視点」からの配慮事項

#### 1) 町の魅力を際立たせる

アンネのバラや平和祈念樹木を適正に管理し、平和意識を醸成します。

#### 2) 資源を磨き生活の質を豊かにする

平和事業を通じ、平和について考えることで、その大切さを再認識できるようつとめます。

#### 3) つながる地域づくり

困りごとが生じた際に、寄り添いささえ合いができる関係の構築および多様な人材が活躍する社会形成をめざします。

#### 4) 危機に備える

感染症発生時における罹患者および医療従事者に対する人権に配慮します。

## 基本目標3

## 豊かなこころを育むまち

## 〈施策分野5〉 国際交流

## 現況と課題

瑞穂町は、米国カリフォルニア州モーガンヒル市と姉妹都市を締結し、平成20年度から継続して両市町による中学生のホームステイ体験などの交流事業を行っています。また、平成28年6月にはタイ王国コーンケン市と友好交流に関する覚書を交わし、翌年度にはコーンケン市長を含む訪問団が来町するなど、新たな交流をすすめています。

令和2年3月現在、瑞穂町には857人の外国人の住民登録者が暮らし、その数は平成27年3月の559人から5年間で約1.5倍に増えています。また国籍も多様化しています。町や地域のイベントにも外国人住民の参加が多く見受けられるほか、となり近所の住人が外国人であることも珍しくなくなりました。すべての住民が国籍、言語、文化などの違いを超えて共生し、友好関係を構築できるよう、国際的視野を持った人材の発掘・育成がもとめられています。

瑞穂町はこれまで、外国人住民の生活支援に向けて、看板などの外国語表記や出版物の多言語化に取り組んできました。また、瑞穂・横田交流協会が中心となり、横田基地関係者との住民レベルでの交流がすすめられています。

多様な都市交流を推進するためには、住民と行政の協働により姉妹都市交流等の充実をはかることが必要です。外国人住民ニーズを的確にとらえ、社会・地域参画の環境を整え、多文化共生のまちづくりをすすめることが課題となっています。

海外留学奨学資金等支給制度を通じた青少年の海外留学への支援など、国際的視野に立った人材の発掘・育成を行う必要があります。

## 10年後のめざす姿

姉妹都市交流事業や外国人住民などとの交流を通し、国際的な視野を持った住民が活躍しています。

### ■ 施策数値指標

指標名	現状値	令和7年度目標値	令和12年度目標値
海外留学奨学生数（累計）	14人 (令和2年10月現在)	19人	24人

## 施策

### 1 国際交流の推進

姉妹都市であるモーガンヒル市や友好交流に関する覚書を締結したコーンケーン市との交流を推進します。

#### 【主要な取組】

- 姉妹都市モーガンヒル市との交流事業の実施
- タイ王国コーンケーン市との交流の推進

### 2 多文化共生のまちづくり

外国人住民向け事業を実施するとともに、外国人住民の社会・地域参画を促進し、外国人住民が暮らしやすい生活環境をつくりあげます。また、国際交流の中心となる人材の育成、横田基地関係者との交流を推進します。

#### 【主要な取組】

- 海外留学奨学資金等支給制度の利用促進
- 瑞穂・横田交流協会との連携による横田基地関係者との交流
- 外国人住民の社会・地域参画の場の形成
- 外国人住民へのコミュニケーション支援

## 瑞穂町の主な関連計画

- 国際化推進計画

### 「重視すべき視点」からの配慮事項

#### 1) 町の魅力を際立たせる

さまざまな国籍の住民との交流を通し、多様性や国際的な視点を育みます。

#### 2) 資源を磨き生活の質を豊かにする

モーガンヒル市への派遣者やホームステイ受入家庭、町内在住外国人、海外留学奨学生などと連携し、町内の国際化や姉妹都市等との交流などを効果的にすすめます。

#### 3) つながる地域づくり

国籍、言語、文化などの違いを超え、すべての住民が互いに認識・交流し合うことのできるコミュニティの構築をめざし、誰かの困りごとに対し発見・対応しあえる仕組みの形成につとめます。

#### 4) 危機に備える

いざという時に、やさしい日本語などを活用し、外国人住民をサポートできる体制整備につとめます。



モーガンヒル市から中学生が訪問



町の中学生がモーガンヒル市へ訪問



タイ王国コーンケン市から町への町制80周年ビデオメッセージ



外国人のための防災セミナー